

日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D) に基づく「みなみ阿波観光局観光振興計画」策定について

1. 本事業の目的・現状・課題

コロナ禍を経て、2023年の観光客数は概ね2019年水準まで回復(国内全体)。みなみ阿波地域においても、安定した誘客に向けてインバウンド市場を含むターゲット拡大や旅行消費額の拡大につながる観光アクションに取り組んできました。また、地域の文化や自然を守りながら、持続可能な観光開発を進める必要があります。昨年度には伊島や出羽島、かも道をはじめとするサステナブルツアー商品開発を進めてきましたが、広域エリアとしてのみなみ阿波地域の現状把握や中期的なアクションプランの検討など、観光地域マネジメント力の強化や市場での競争力強化に向けて、より具体的な手法を用いて持続可能な観光を推進していくことが重要です。そのため、本年度の観光庁事業を活用し、「日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D)」に準拠した「みなみ阿波観光局 観光振興計画策定」を進めてきました。

2. JSTS-Dとは？ (SDGsとの違い)



SDGs (持続可能な開発目標)

幅広い社会課題を解決するための世界共通の目標。17のゴールがある。

例えるならば...



SDGsは「健康的な生活を送ろう」というスローガン
健康的な生活につながる17のスローガンが掲げられているイメージです



JSTS-Dは「健康診断」
具体的なチェック項目で健康状態を確認し、改善点を明確にするもの

つまり、JSTS-Dは「持続可能な観光」を実現するために、観光地が現在どのような状態にあるのかを測定し、改善すべき点を明確にするためのチェック指標です。



JSTS-D (日本版持続可能な観光ガイドライン)

持続可能な観光を実現するための具体的な指標と実践方法を示したものの。113指標。

4. 具体的な取り組み (計画策定のポイント)

JSTS-Dに準拠した観光振興計画は、以下4つの分野に整理することがポイントです。

- A. 持続可能なマネジメント：地域主体・地域間連携によるマネジメント体制の構築
- B. 社会経済：地元産品の利用促進、雇用創出、関係人口の拡大
- C. 文化：地元の伝統・文化を生かした体験型観光プログラム等の開発
- D. 環境：エコツーリズム、ゼロ・ウェイスト施策に基づく観光プログラム等の開発

この構成は国際基準に基づいています。そのため、どの地域であっても、誰が取り組んでも、統一されたフレームワークで地域独自の観光アクションを立案し、実行できます。言い換えれば、DMOや自治体の担当者が変わっても、観光振興計画の骨子や方向性、判断基準が維持され、長期的な取り組みを継続できる点が最大の強みです。

【みなみ阿波観光局 観光振興計画の概要】

- ✓ 上記の4分野構成で、これまでの取り組みを中心に体系化
- ✓ 当観光局が担う役割として、「A. 持続可能なマネジメント」「B：社会経済」に重点を置きながら、基本施策やアクションプランとJSTS-D指標を紐付けた

5. JSTS-D導入により得られるメリット

現在、観光庁ではJSTS-Dの導入地域拡大に向けて動いています。そのため、JSTS-Dロゴの取得地域においては、補助事業等の申請に係る優遇などがあります。

- 観光関連の補助金の優遇：補助率が1/2から2/3に拡大などあり
- 申請可能な事業の拡大：「持続可能な観光推進モデル事業」(観光庁) 等
- 長期的な財源確保の可能性向上：国・自治体・民間との連携強化

6. 今後の動き (観光振興計画の承認後)

* 令和7年4月1日以降

- ①「みなみ阿波観光局観光振興計画」の公表・公開
- ②JSTS-Dロゴマーク取得申請／観光庁
- ③JSTS-Dロゴマークの活用

(2025.2.6時点)
県内のJSTS-Dロゴ取得:2地域
三好市、(一社) イーストとくしま
観光推進機構

3. JSTS-D導入の目的／期待する成果

みなみ阿波観光局では、JSTS-Dに準拠した観光振興計画を策定し、その後、JSTS-Dロゴ使用申請を経てロゴを取得することにより、以下の成果につながることを期待しています。

- ①国際基準に基づく持続可能な観光マネジメントの確立
- ②JSTS-Dロゴ活用による教育旅行 (SDGsプログラム世代) 市場での競争力アップ
- ③欧米豪市場向けのサステナブルツーリズム目的地としての国際競争力強化
- ④観光による地域資源 (自然・文化・人) の保護と活用
- ⑤地域住民・企業・行政が連携し、持続可能な観光を実現